

中学校現場をめざす英語教育とは

—カリスマ教師、田尻悟郎の例に学ぶ

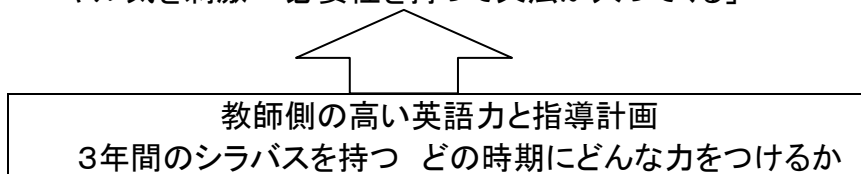
奈良市立平城東中学校
川淵弘二

1. はじめに—中学校現場の現実

- ① 「今、どこやってる？」
 - × 習得のための練習
 - 教科書の指導が目的
 - 進度中心
- ② 教師の説明と板書中心
 - ⇒ 低学力生徒を伸ばしたい
 - 3・4・3への対応→「手のひらから低学力生徒がこぼれ落ちる」
- ③ 入試への対応
 - ⇒ 初めてみた問題にも対応する力をつけさせたい
 - プリント、ワークブック→塾とどう違うの？
- ④ 中学校英語教育でめざすものは？

2. 田尻悟郎実践から見えてくること

- ① 英語が使えるようになる中学生
 - ・ 勉強させない勉強 単語カルタ 音声重視
- ② 協同学習から人間教育
 - ・ 11 人の教師 意欲のある生徒を徹底的にほめる
 - 「一人で全員をカバーできなくても 11 人いればできる」
 - ・ 「有名大学合格ではなく、合格と一緒に喜び合える仲間作り」
 - ・ 「英語なんかできなくても生きていける。『ありがとう』が言えなければ生きていけない」 人間教育
 - ・ 「やらないから叱る。勉強しないから怒鳴る」→「この生徒たちに出会えてよかった。すごく幸せ」
 - ・ 「がんばった自分を認める力」
- ③ 初めてみる課題にどんどんチャレンジさせる
 - ・ ヤル気を刺激 「必要性を持って文法が入ってくる」



3. カリスマから借用、応用できること

- ・ ペアワーク中心で授業を進める
 - ・ 考えさせる シェアする 認め合う
 - ・ 教科書を教える→教科書を使う
 - ・ 説明から練習へ
- ⇒ モチベーション 自信
コミュニケーション力
授業が楽しい